



## 平成28年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年2月12日

上場会社名 株式会社 梅の花 上場取引所 東  
 コード番号 7604 URL http://www.umenohana.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 梅野 重俊  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役管理本部長兼 経理部長 (氏名) 上村 正幸 TEL 0942-38-3440  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年9月期第1四半期の連結業績（平成27年10月1日～平成27年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第1四半期	8,113	3.4	203	△38.0	193	△32.6	112	△27.4
27年9月期第1四半期	7,847	△2.1	328	29.4	286	21.7	155	11.4

(注) 包括利益 28年9月期第1四半期 111百万円 (△32.3%) 27年9月期第1四半期 165百万円 (16.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第1四半期	15.30	—
27年9月期第1四半期	21.07	17.77

(注) 28年9月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年9月期第1四半期	22,054	7,005	31.8	949.60
27年9月期	21,159	6,930	32.8	939.44

(参考) 自己資本 28年9月期第1四半期 7,005百万円 27年9月期 6,930百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
28年9月期	—	—	—	—	—
28年9月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成28年9月期の連結業績予想（平成27年10月1日～平成28年9月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,705	2.4	382	△4.2	293	△17.1	112	△46.9	15.27
通期	30,142	2.5	420	128.4	243	104.7	81	—	11.02

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名） 、除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年9月期1Q	7,489,200株	27年9月期	7,489,200株
② 期末自己株式数	28年9月期1Q	111,608株	27年9月期	111,608株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年9月期1Q	7,377,592株	27年9月期1Q	7,377,618株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成28年2月10日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあり緩やかに回復に向かうことが期待されます。ただし、アメリカの金融政策の正常化が進むとともに、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがあると言われる中で推移いたしました。

このような状況のもと、前期からのスクラップアンドビルド及び新規出店等により当第1四半期連結累計期間の売上高は、81億13百万円（前年同期比103.4%）と前年同期を上回っております。営業利益につきましては、広告費等の一時費用により、2億3百万円（前年同期比62.0%）と前年同期を下回り、経常利益は1億93百万円（前年同期比67.4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億12百万円（前年同期比72.6%）となりましたものの想定通りに推移しております。

今後の出店につきましては、ポイントカード顧客の世帯補足率や分布状況と商圈属性データの分析から店舗の商圈と連動した地域及び百貨店のみならず駅ナカ等新たな立地への展開も模索しております。加えて、新規業態の出店にも積極的に取り組んでおります。また、自然災害等に対するリスクの分散及び中長期的な出店並びに物流の効率化等を見据え、京都府綴喜郡井手町に新工場（セントラルキッチン）建設の準備を進めております。

店舗の出店及び退店につきましては、外食事業1店舗出店及び2店舗退店、テイクアウト事業1店舗出店及び1店舗退店により、当第1四半期連結累計期間末の店舗数は267店舗となりました。

なお、セグメントの状況は次のとおりであります。

#### (外食事業)

外食事業におきましては、客数増加を第一義ととらえ、メニューを一新するとともに価格の見直しと税込価格への変更、加えて大感謝祭企画や忘新年会企画等、季節に合わせたイベントを行いお客様の来店頻度の向上に努めました。また、梅の花版プレミアム商品券の販売等新しい取り組みを行っております。

さらに、持ち帰り商品につきましては、おせちやオードブルの販売強化を行うとともに、百貨店で販売しているパーソナルサイズの商品を増やすこと等により、売上の底上げに注力しております。以上の結果、売上高は48億77百万円（前年同期比102.9%）と前年同期を上回りましたが、セグメント利益につきましてはテレビCM等により広告費が増加し2億94百万円（前年同期比75.7%）と前年同期を下回りました。

また、専門スタッフが直接店舗で問題の改善と作業の標準化を行うことにより、作業効率アップによる店舗スタッフの作業負担の軽減と接客レベルの向上の両立に取り組んでおります。

出店及び退店につきましては、梅の花は1店舗出店し72店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は2店舗退店し7店舗となりました。

従いまして、外食事業の全店舗数は85店舗となりました。

#### (テイクアウト事業)

古市庵テイクアウト店におきましては、「我々は、綺麗で美味しく価値ある商品を笑顔と愛情で感じ良く販売し、安心・安全な品質の向上を目指します。」を経営方針として価値ある商品を提供できるように心がけております。

具体的には、ハロウィン寿司やクリスマス寿司、さらに孫の日やきのこの日等季節に合わせた企画を行うとともに、地域の食材を使った商品開発を行いました。また、他業種とのコラボ商品の開発を強化するとともに、「まんぱく」等イベントにも積極的に参加いたしました。

梅の花テイクアウト店におきましては、「湯葉と豆腐の店 梅の花」の人気メニューであるカキフライを使った弁当や和風ミートローフ等を販売することで売上拡大を図りました。また、両テイクアウト店ともに外部講師による販売員向けセミナーを行う等、接客の質の向上にも取り組んでおります。

これらの取り組みの結果、テイクアウト事業既存店の売上が前年同期比103.1%となり、テイクアウト事業全体では売上高は32億36百万円（前年同期比104.1%）、セグメント利益1億71百万円（前年同期比88.3%）となりました。

店舗数につきましては、古市庵テイクアウト店は133店舗、梅の花テイクアウト店は42店舗、その他店舗は1店舗出店及び1店舗退店し7店舗となりました。従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は182店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ8億94百万円増加し、220億54百万円となりました。これは主に、季節要因により売掛金が5億87百万円、土地の取得及び新規出店により有形固定資産が1億33百万円増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末と比べ8億20百万円増加し、150億48百万円となりました。これは主に、季節要因により買掛金及び未払金が6億75百万円、社債の償還により転換社債型新株予約権付社債が22億59百万円減少し、借入金の総額が22億37百万円増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末と比べ74百万円増加し、70億5百万円となりました。これは主に、利益剰余金が75百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年11月13日の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,042,100	2,053,160
売掛金	1,389,584	1,976,598
商品及び製品	100,993	110,821
原材料及び貯蔵品	191,528	276,890
繰延税金資産	179,427	139,141
その他	563,296	685,471
貸倒引当金	△1,658	△1,558
流動資産合計	4,465,272	5,240,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,875,231	8,067,418
機械装置及び運搬具(純額)	270,554	268,122
土地	4,930,170	5,260,442
建設仮勘定	402,277	749
その他(純額)	608,763	623,965
有形固定資産合計	14,086,998	14,220,699
無形固定資産		
のれん	225,669	197,460
その他	82,092	81,584
無形固定資産合計	307,761	279,045
投資その他の資産		
投資有価証券	105,557	107,276
長期貸付金	201,893	201,893
退職給付に係る資産	192,404	205,533
繰延税金資産	107,955	106,216
敷金及び保証金	1,672,142	1,672,104
その他	146,280	147,911
貸倒引当金	△126,467	△126,467
投資その他の資産合計	2,299,767	2,314,468
固定資産合計	16,694,527	16,814,214
資産合計	21,159,800	22,054,740

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	619,322	1,023,610
短期借入金	2,700,000	5,400,000
1年内返済予定の長期借入金	1,610,934	1,489,344
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	2,259,675	-
未払金	1,248,254	1,519,439
未払法人税等	48,600	37,403
賞与引当金	230,600	146,300
ポイント引当金	186,740	187,173
その他	631,962	882,627
流動負債合計	9,536,090	10,685,897
固定負債		
長期借入金	3,981,184	3,640,546
資産除去債務	662,789	671,479
その他	48,898	51,041
固定負債合計	4,692,871	4,363,067
負債合計	14,228,961	15,048,965
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	3,459,117	3,459,117
利益剰余金	△477,771	△401,786
自己株式	△196,262	△196,262
株主資本合計	6,908,261	6,984,246
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,061	21,573
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
退職給付に係る調整累計額	6,241	4,680
その他の包括利益累計額合計	22,576	21,528
純資産合計	6,930,838	7,005,774
負債純資産合計	21,159,800	22,054,740

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)
売上高	7,847,505	8,113,983
売上原価	2,384,175	2,492,159
売上総利益	5,463,330	5,621,824
販売費及び一般管理費	5,134,495	5,417,868
営業利益	328,834	203,956
営業外収益		
受取利息	1,151	1,062
受取配当金	438	478
受取手数料	1,594	1,446
受取保険料	-	8,909
雑収入	6,126	6,735
営業外収益合計	9,311	18,631
営業外費用		
支払利息	14,278	14,719
貸倒引当金繰入額	21,665	-
株式関連費	13,707	11,553
雑損失	1,589	2,913
営業外費用合計	51,241	29,186
経常利益	286,904	193,400
特別損失		
固定資産除売却損	70,265	7,295
特別損失合計	70,265	7,295
税金等調整前四半期純利益	216,639	186,104
法人税、住民税及び事業税	41,950	27,008
法人税等調整額	19,238	46,223
法人税等合計	61,188	73,232
四半期純利益	155,450	112,872
親会社株主に帰属する四半期純利益	155,450	112,872

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益	155,450	112,872
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,160	512
退職給付に係る調整額	1,665	△1,560
その他の包括利益合計	9,826	△1,047
四半期包括利益	165,277	111,824
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	165,277	111,824

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,738,218	3,109,287	7,847,505	—	7,847,505
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,142	15,004	17,147	△17,147	—
計	4,740,361	3,124,291	7,864,653	△17,147	7,847,505
セグメント利益	389,572	194,190	583,762	△254,927	328,834

(注) 1 セグメント利益の調整額△254,927千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,877,744	3,236,239	8,113,983	—	8,113,983
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,786	14,256	18,043	△18,043	—
計	4,881,530	3,250,495	8,132,026	△18,043	8,113,983
セグメント利益	294,951	171,386	466,337	△262,381	203,956

(注) 1 セグメント利益の調整額△262,381千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (重要な後発事象)

## 重要な設備投資

当社は、平成28年1月5日開催の取締役会において、京都府綴喜郡井手町に新セントラルキッチン（以下、京都C K）を建設することについて決議しました。

## 1. 建設の理由

現在久留米C K（福岡県久留米市）に集中している品目の京都C Kへの製造分散による自然災害等に対するリスクの分散及び近畿東海北陸地区の店舗への配送コストの削減、加えて同店舗へ供給する品目の増加等による生産規模の拡大であります。

## 2. 設備投資の内容

資産内容	設備投資予定額	現況
梅の花 京都C K (工場建設費のほかに付帯工事費を含む)	22億円	更地

注 京都C Kの建設予定地は、当社所有の土地（京都府綴喜郡井手町 平成27年10月に取得）であります。

## 3. 建設計画

建設開始時期：平成28年10月（予定）

竣工時期：平成29年7月（予定）

稼働時期：平成29年10月（予定）

## 4. 今後の業績に与える影響

工場建設及び付帯工事に関しましては、建設事業者等による競争見積もりにて選定を行う予定であります。今期業績に対する影響につきましては軽微であると判断しております。